

繊維技術ロードマップ策定検討会について

2021 年 12 月

経済産業省製造産業局生活製品課

1. 本検討会の開催趣旨

世界では ASEAN 諸国で繊維生産が拡大する中、我が国では生産が縮小し続けており、繊維産業のおかれている状況は非常に厳しい。我が国の繊維産業は、衣料用の繊維素材として高機能化、高性能化等の技術を蓄積し、これらの特長を活かし、その用途を生活資材、産業資材へ展開し、必要とされる機能に対応することで事業を継続してきた。今般の新型コロナウイルスの感染拡大では、繊維産業は衣料の需要がさらに落ち込む一方で、マスクや医療用ガウンといった衛生・医療分野へ貢献するなど、多様な用途での繊維技術の利用は引き続き望まれている。

他方、2050年までに温室効果ガス排出を全体としてゼロにするカーボンニュートラル宣言がなされ、このハイレベルな目標の達成のためには、産学官一体となり取り組んでいく必要がある。また、国内外におけるサステナビリティやデジタル化の動きが産業構造に影響をもたらしつつある中で、こうした構造変革に速やかに対応することが急務となっている。

また、未来の産業につながる繊維技術の創出、繊維産業の国際的な競争力維持との観点から、繊維技術の戦略や事業化への工程を政策として示すべきとの指摘もある。

こうした状況を踏まえ、本検討会を設けることとし、繊維産業の技術開発及びイノベーションを促進するため、その手法や戦略、事業化への工程等について議論・検討し、とりまとめる予定である。

2. 本検討会の進め方

月 1 回程度開催し、年度内を目途にとりまとめ予定。

3. 検討課題

繊維産業における今後の技術開発について、以下の課題の戦略や工程等を検討、整理し、2030年を目標としたロードマップを示す。

- ・新たな繊維技術・イノベーションの創出

新製品、新市場の創出につながる繊維製品・部材を開発するための方法について検討する。

- ・繊維技術の事業化、用途拡大

これまで培ってきた繊維製造・加工の様々な高い技術を事業に結びつける方法、繊維の用途拡大を図る方法について検討する。

- ・産学官・異業種との共同研究・連携の促進

研究開発リソースを最適に組み合わせた研究開発が促進されるよう大学や公的研究機関の情報を整理する。

- ・産地の技術開発支援

地域資源を活用した新製品開発や技術開発が円滑に行われるよう、必要となる情報や技術を共有、補完できる地域ネットワークの強化を図る。

- ・サステナビリティへの対応

カーボンニュートラルや環境配慮の製造行程・製品について、実現すべき技術開発について検討する。

4. 検討会委員

井上 真理 神戸大学大学院 人間発達環境学研究科教授

牛島 洋史 国立研究開発法人 産業技術総合研究所
人間拡張研究センター 副研究センター長

小野 雄平 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構
技術戦略研究センター ナノテクノロジー・材料ユニット
研究員

鞠谷 雄士 東京工業大学 物質理工学院特任教授

中林 亮 日本化学繊維協会 技術委員会委員長

藤本 辰雄 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構
技術戦略研究センター ナノテクノロジー・材料ユニット
ユニット長

森川 英明 信州大学 繊維学部長 教授